

平成23年度 第6回 宮前区区民会議

1 日 時 平成23年11月28日（月）午後6時～午後7時30分

2 場 所 宮前区役所 大会議室

3 出席者

(1) 委 員 山下委員長、恒川副委員長、直本副委員長、浦野委員、大村委員、河井委員、久保委員、佐藤委員、高橋委員、豊島委員、中村委員、平井委員、藤田委員、吉田委員、持田委員

(2) 参 与 石川参与、織田参与、竹田参与、持田参与、山田参与

(3) 事務局

4 次 第

1 開会

2 議事

(1) 「第3期区民会議 提案素案」について

ア 専門部会からの報告

イ 意見交換

(2) 宮前区区民会議フォーラムの概要について

3 その他

- ・ 第2期区民会議提案事業の進捗状況
- ・ 今後のスケジュール
- ・ 区民会議交流会
- ・ 平成24年度地域課題対応事業 計画（案）

5 傍聴者数 8人

午後6時開会

司会（板橋） それでは、定刻となりましたので、これより第6回宮前区区民会議を開催いたします。宮前区役所副区長の板橋でございますが、本日の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。恐縮でございますが、ここで着席をさせていただきます。

それでは、会議開催に先立ちまして、事務連絡をさせていただきます。

本日の会議開催に当たりましては、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただいております。したがって、傍聴、取材が可能となっておりますので、ご了承いただきたいと存じます。また、会議録の作成に当たりましては速記者に同席をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。そして、本日発言のございました方々につきましては、後日その発言の確認をお願いしたいと存じますので、これもよろしくお願いいたします。また、傍聴

の方々につきましては、入場時にお配りしてございます遵守事項をお守りいただくようお願いいたしますとともに、本日の会議に関するアンケート用紙にご記入いただきまして、お帰りの際にはご提出いただきたいと思います。

続きまして、本日の委員、参与の出欠状況等について報告をさせていただきます。区民会議委員につきましては、岡田委員、谷山委員、手塚委員の3名につきましてはご欠席の連絡をいただいております。また、参与につきましては、今、竹田先生がいらっしゃっておりますが、飯田参与、田村参与、土居参与、矢澤参与から、事前に欠席される旨のご連絡をいただいておりますので、よろしくお願ひしたいと存じます。

続きまして、本日皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきますと存じます。お手数ですけれども、よろしくご確認をお願いいたします。

まず、本日の会議次第でございます。

続きまして、別紙1ということで座席表、別紙2ということで名簿がございます。

次に、議事資料でございますが、まず資料1、第3期宮前区区民会議提案素案の概要でございます。

続きまして、資料2は、活力づくり部会の提案素案でございます。

資料3につきましては、地参知笑部会の提案素案でございます。

資料4につきましては、宮前区区民会議フォーラムの概要（案）でございます。

続きまして、参考資料としてつけさせていただいておりますが、まず、参考資料1は、冒険遊び場活動の取り組み状況でございます。

参考2につきましては、みやまえカルタの取り組み状況でございます。

参考3につきましては、今後のスケジュールでございます。

参考4につきましては、平成23年度区民会議交流会の開催についてでございます。

参考5につきましては、平成24年度地域課題対応事業計画（案）でございます。

よろしいでしょうか。以上が本日の配付資料でございますので、もし落丁、不足等がございましたら事務局にお申し出いただきたいと思いますと存じます。

1 開 会

司会（板橋） それでは改めまして、これより第3期宮前区区民会議第6回全体会を開催いたします。

初めに、開会に当たりまして、区民会議の事務局を代表し、区長よりごあいさつをさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

区長 皆さん、こんばんは。大変寒い中、またお忙しい中、第6回の区民会議全体会にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。

この第3期の区民会議も大詰めを迎えているということでございまして、8月の全体会以降、両専門部会においても精力的にご議論いただきまして、課題解決に向けた

提案の素案がまとまったとお伺いしているところでございます。この全員が集まる会議も今回を含めて2回ということでございますので、きょうもそれぞれの部会から報告があらうかと思いますが、ぜひ積極的なご意見をお出しいただきまして、最終的な第3期の提案につなげていただければと考えているところでございます。

また、区民会議からの提案につきましては、第2期区民会議から出されました冒険遊び場活動、さらには、みやまえカルタ、こういった取り組みも現在順調に進行しているところでございます。第3期の皆様方からいただいた提案につきましても、区役所としてきちんと受けとめまして、区民の皆さんとともに実現に向けて取り組みを進めてまいりたいと考えております。

本日は多くの議事があるということでございますが、積極的なご討議をお願いいたしまして、簡単ですが冒頭のごあいさつとさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

司会（板橋） どうもありがとうございました。それでは、これからの進行につきましては山下委員長をお願いしたいと存じますので、よろしく願いいたします。

2 議 事

(1)「第3期区民会議 提案素案」について

ア 専門部会からの報告

山下委員長 それでは議事に入りたいと思いますが、先ほど区長からもお話のありましたように、第3期の区民会議はもう1年半たちまして2年目の終わり近くになっております。区長に対しましての報告の時期にもなってきました。

それでは、議事に入りたいと思います。本日の議事としましては、最初に第3期区民会議提案素案について、両専門部会の報告と意見交換、次に、3月の宮前区区民会議フォーラムの概要についてが予定されております。提案素案につきましては第3期の最終的な提案のもとになりますので、時間の許す限り、多くの委員から、ご自分の所属部会についての補足説明、もう1つ部会に対するコメントなどをいただきたいと思っておりますので、よろしく願いします。

それでは、それぞれの専門部会からの報告をお願いしたいと思います。

では、活力づくり部会の提案素案について、佐藤部会長から報告をお願いいたします。佐藤さん、よろしく願いいたします。

佐藤委員 よろしく願いします。説明時間がそんなに長くないので早口でしゃべってってしまうかと思うのですが、資料2の1ページをまずお開きください。

こちらの背景とかはずっと説明をさせてきていただいているので、簡単に終わらせたいと思います。何度もこの場をお借りして話し続けているのですが、宮前区というとなんかの会話に、天気が晴れだねというのと同じぐらい、坂道が多いねという

言葉が聞かれるかと思えます。宮前区は高齢化も進んでいるということでもあるのですけれども、高齢になると結構坂道が大変になってくるというところもありまして、いつもそれが話題に上がるのですけれども、それをプラスに変えていこうということが活力部会のもととなっております。

次のページを開いていただきまして、近年、高齢者の健康づくりへの関心ということで、いろんところで、既存の団体でウォーキング大会というか、ウォーキングラリーというか、それぞれ回っていただいているようですけれども、そちらに関しては大変人気があって、募集をかけるとすぐに定員いっぱいになると聞いております。ただ、宮前区は名称のついた坂があるのですけれども、なかなか知られていないところもありまして、坂に注目して取り組んでいます。全体像については2ページの下に書いてあるのですけれども、こちら説明を何度かさせていただいているので、後でお時間のあるときに読んでいただけたらと思えます。

前回の全体会からふえたことというか、肉づけがされたものについて、具体的な内容についてご説明したいと思えます。そちらが3ページと、その後続く5ページです。宮前区の坂道を知ってもらおうと、やっぱり知ってもらうことが最初になりますので、前回、宮前区のマップを作るためのワーキンググループを立ち上げ活動しますということをご報告していたと思うのですけれども、こちらのほうでウォーキンググループを立ち上げ、実際に歩いて大体こんなものだよというのが大まかにイメージとして作ってありますが、7ページの次、番号が振っていないのですけれども、(仮称)みやまえ坂道ウォーク目次(構成)案です。持ちやすい冊子ということで、目黒区と比較しながらなんですけれども、目次を決めていきまして、前回の部会で皆さんに諮りまして40ページという内容になっております。

次が、これも案ですけれども、みやまえ生き活き坂道ウォーク、「生き活き」というのを上につけまして、こちらが表紙という形で提案を出させていただいています。写真については、正式にこういうふうになっていく場合は許可をとらなければいけない写真が幾つかあります。

その次のページがサンプルとして作ったものなのですけれども、宮前平から宮崎台小学校、そういうところを回しまして、街路樹と古い街道探訪コースとなっているのですけれども、これは1つのサンプルですので、こういうふうなイメージで全コース作っていきたいとなっています。ちなみに全コース回しまして、今、文章とか細かい部分については作成中でございます。

その次のページが、写真が載っていきまして、写真と坂の名前と坂の詳しい状況と書いているのですが、余り字数が多過ぎても読む気になれないというところもあるので短くしてあります。

本当に入れたいところ、宮前区にはたくさんいいところがあるのですけれども、

8つぐらいしか内容が入れないということで、議論しながら絞って載せております。もしかしたら近所の方が見たら、もっといいところがあるよとおっしゃられることも、でき上がったときにはたくさんあるかと思うのですが、とにかく坂道をメインにやっていますので、そちらのほうでいきたいと思っております。また、ここら辺も後で、こういう内容ももっと載せたらどうかとか、もしご意見とかアドバイスがあったらいただけるとありがたいです。

4ページに戻りまして、これができたからといって、ちょっとの報道だけではなかなか多くの人には伝わらないということで、目黒区もいろんな情報を載せてきていただいたり、区長さんが何かのたびにPRしてくれたということで、全然関係ない内容で取材に来て、区長さんが説明するというようなトップセールスでいきましたということ言っていたので、ぜひ宮前区長にもここら辺はご協力いただけたらと思っております。

そのほかに、委員の中にフロンターレから出席してくださっている方もいらっしゃいますので、そういった方面から、どうしても中高年の方、健康を気にするような年代の方がウォーキングに参加をしているので、それ以外の方にもPRをしていくという点では、フロンターレのお力を借りたり、みやまえぼーたろうさんの力を借りたり、向かいの地参知笑さんのお力を借りてということなのですが、地参知笑のサポーターズが上がるのが、冊子を作って1年おくれになるので、多分イベントをこんなふうにやりましたよという開催のPRをしていただくように実際はなるかと思いません。そんな形でいろんな方にご協力いただいて、PRをして話題性を作りまして、まずは歩いてもらうというところに皆さんの注目を集めたいと思っております。

次に、冊子を作っただけでは区民会議としてはいかなものかというところがありますので、実際は何のために地図を作るのかということ、次が本題となりまして、坂道を使ったイベントをしようということで、坂道に興味を持っていただいて楽しんでもらう。そのことで、健康に効果があるのだねということを実感していただいて、健康づくりにつなげていただく、コミュニティづくりにつなげていただくというところが大きな目標となっています。

5ページにもあるのですけれども、多くの方が参加して楽しめるイベントを開催することと、日常的に取り組めるようなイベントということで、2つのイベントを平行線上でやっていけるようなイメージで考えております。5ページにも書いてあるように、単なる娯楽として終わらせるのではなくて、ウォーキングで顔を合わせた人たちがコミュニティで少しずつでも交流が持てるようにと考えていき、まずは地域の団体や区民が主体となってウォーキングイベントは運営するのですけれども、やはり区役所さんにももちろん支援していただいて、協働の形でやっていくことが地域の底力につながると考えています。

地域の団体や区民が主体になってということなのですが、2通りに分かれた方向性でと考えています。まずは、実際に今いろんなところでウォーキングイベントというか、ウォーキングをプラスした、イベントまでは大きくないかもしれませんが、いろんな取り組みをしていただいている団体がありますので、そちらのほうにウォーキングガイドのPRをさせていただきまして、ウォーキングガイドをもとに何かプラスアルファでやっていただけないかということをお願いしまして、取り組んでいただきたいということです。これに関しては本当に自由な発想を持って各団体にやっていただくことで、同じ坂道でも団体が違うと目線が違うし、参加する年齢も違うので、それがそのよさだと思っていますので、各団体にお任せして楽しんでいただきたいと考えています。

もう1つは、宮前区の地域課題の解決を図る事業提案制度の活用も考えていますということです。こちらの制度ですけれども、うちの委員会でやったときも、まずこの提案は何ぞやというところから始まったのですけれども、私のほうがもともと落書き消しで2回ほど使わせていただいております、わかる範囲で皆さんにご説明したのですけれども、新しく団体を立ち上げていただいたり、団体の中には本当に資金不足の団体もあるかと思っておりますので、そういう団体で、力はあるけれどもお金がないよとか、もうちょっと区役所の力を借りればできるよという団体もあると思っておりますので、そういう団体の方に手を挙げていただいて、課題解決制度を使っていただくという二通りを考えています。

前回も課題として出ていたのですけれども、区民会議の委員が引き続き、課題として上がったもの、提案したものに関与して続けてやっているというケースが中にはある。それだけで負担も重く感じてしまう方もいらっしゃるし、ほかの団体が育たないということもありますので、こちらでは6ページに書いてあるような坂道ウォーキング大会やスタンプラリー、坂道健康教室といったものをやっていただけたらありがたいという提案をさせていただきまして、その趣旨に合ったものに取り組んでいただきたいというふうに——課題解決のほうですが——細かくは決めないで、こういうイベントでこれくらい的人数でと決めるのではなく、こういった方向性で今まで議論がされてきたのだけれども、委員としてはこういうふうなイメージできたので、なるべくそれに合わせてやってほしいという提案をさせていただくようになりました。

坂道健康教室に関しましては、健康福祉局、センターの方とかもウォーキングを毎年やられて、私も参加させていただいたのですけれども、そういうときにご利用していただいたり、坂道ガイドブックを使ってもらってコースを組んでいただいたり、ちょっとご協力をいただければと思います。これについても議論の中に出まして、市民自治ということで、市民が取り組むことがという話も出たのですけれども、活用できるものはPRの一つとして活用したいということから、ご協力いただけるものはご協

力しながら盛り立てていきたいと考えています。

留意事項としましては、何度もみんなが期待しているかもしれないマラソン大会です。こちらの夢も捨てずに、盛り立てて、マラソン大会ができたらいいなというふうにとどめさせていただいてはいるのですけれども、いつかは実現したいねというふうに話に上っています。イベントの開催については、大きなイベントとしては年に一、二回程度の実施ということで、負担のない程度に行っていきたいと考えています。

以上、ちょっと長くなりましたが、活力部会からの報告を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）

山下委員長 どうもありがとうございました。宮前区の特徴である坂道を活用しようという提案でございます。それでは次に、持田部会長にお願いします。バトンタッチをしますので、地参知笑部会の提案素案についてご報告等をお願いいたします。

持田委員 それでは、地参知笑部会から素案の提案をさせていただくのですが、こちらにもマイクなしということで、佐藤さんに負けずに頑張ってお声を出してやっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

中ほどに、地参知笑部会の資料3がございます。まず、1ページが背景と課題ということでございますが、これはもう前から説明をさせていただいておりますので、簡単に説明をさせていただきます。

宮前区では、毎年7000世帯、約1万6000人が転入してきます。これらの世帯は地域に知り合いがない場合が多く、孤立しがちです。宮前区では、平日は都内に通勤通学、休日は東京や横浜など宮前区以外を買い物やレクリエーションの場とする川崎都民が多くなっています。こうした地域で孤立した人や宮前区に住むだけの人の増加が地域コミュニティ希薄化の一因になっていると考えられますということで、こちらが背景となっております。課題としましては、このような状況から、地域へのなじみの薄い人に、宮前区で単に住むだけでなく、地域とのかかわりを持ったり、宮前区の産物や行事を楽しんだりするような暮らすための情報提供を積極的に行うことが課題であります。

1ページめくっていただきまして、情報発信ですが、今までは送り手の視点でいろいろ情報発信をしていたのですが、今後は情報を受け取る側の視点で魅力的なコンテンツを作成して情報を提供していくことが必要でないかということになります。

それらを踏まえて、地参知笑部会では、幅広い意味で地域の産物を生かし、地域の魅力を知り、地域社会への参加につなげ、笑顔の広がるまちにしていくための検討をして、2つの提案をまとめました。この2ページに、「地参知笑」部会の文字の意味が出てきております。

提案としまして、①宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう、②宮前区の地域情報を戦略的に発信しようということで、この内容を説明させていただきます。

まず、①宮前区の魅力や楽しみ方を発信しようということで、まず1つ、地域コミュニティへの参加を促す冊子の作成ということで、転入者や川崎都民が興味を持って読んで、実際に参加してみたいくなるような魅力的でワクワク感のある冊子を作成しますということです。

趣旨としては、宮前区になじみの薄い区民をターゲットに、まちの楽しみ方を紹介することにより、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すことを目的として冊子を作っています。この冊子を作るに当たっては、冊子作成の主体といたしまして、だれが作るのだということで、これは区民を募り地域情報の発掘、取材、記事化して作り上げていきます。しかし、こうした冊子づくりのノウハウを持つ区民は限られていますし、限られた人に依存しては情報発信の視野が広がりません。そのため、人材育成を図りながら、市民館と区役所が連携した（仮称）みやまえ情報サポーターズ養成講座を開設し、その実践プログラムの一環として冊子を作成していきます。これは養成講座に参加をして、いろいろなことを学ぶ中で最終的に冊子ができ上がるということで講座を開いてまいります。

掲載する情報、冊子のコンセプトは次の3つであります。①コミュニティへの参加を促すものとする。②項目ごとにターゲットとなる読者を明確にする。③個々人がほしい情報をわかりやすく伝えるということです。③の中にガイドブックのガイドブック的なイメージとあるのですが、これはまた後ほど説明させていただきますが、今行政や地域で発行している情報誌はたくさんございます。その中で、どのガイドブックを私たちが必要としているかということ、私たちが作る冊子の中を見ていただくと、そこにガイドブック的なガイドということでいろんな情報雑誌の紹介をして、これを見れば、この冊子が必要なんだねというのがわかるようなガイドブック的なガイドブックという部分も載せていきたいと思っております。

では、次のページを見ていただいて、コンテンツのイメージとしましては5つございまして、1、世代別レポート、2、体験できるページ、3、ゲーム等、4、ガイドブックのガイド、5、宮前区のプロフィール・概要ということです。まず、1の世代別レポートというのは、地域に参加している世代別の区民を取材したり、さまざまなことを体験してもらい、そのレポートを記事にして掲載していきますということで、区民祭等に参加している方がいたら、その方にインタビューをして区民祭のおもしろさとかを紹介できればということで、そこら辺を世代別に紹介できれば。また、中高生、大学生という世代をもしねらうとしたら、宮前区の若い世代が興味を持っているスポット等があったら、そういうところを紹介してもらえればということになります。

また、2の体験できるページということで、地域で行われるいろんなイベント、イチゴ狩りや、お祭りのときのみこし担ぎ等、区内でだれでも体験できるイベント等の

情報を提供してまいります。体験を通じてその土地となじむことができ、地域とのつながりのきっかけになるような内容を載せていきたいと思っています。

3のゲーム等ということで、こちらはスタンプラリーやなぞ解きゲーム。例えば商店街とタイアップしてスタンプラリーのスタンプ拠点をお店にすることによって、地域の活性化にも期待ができるということで、ゲーム等を取り入れていければと思っています。

4のガイドブックのガイド、これは先ほど説明したとおり、これまでに区や市が発行した地域情報に関する冊子のリストを掲載します。より詳しい内容はこれらの冊子で得てもらうようにするという事です。

5番目に関しましては、宮前区のプロフィールや概要、特徴等々を紹介できればと思っています。

発行する冊子に関してですが、大きさはA4判、オールカラーで20ページ程度とします。毎年1万部印刷し、転入世帯への配布を中心に公共施設で配布するとともに、区ホームページに掲載します。平成24年度中に作成し、3年程度を目安に改定をしていきたいと思っています。

次は5ページに入りまして、スケジュールということで、先ほどありました（仮称）みやまえ情報サポーターズ養成講座を、できれば次のようなスケジュールを想定しております。平成24年3月、公募を開始し、平成24年4月から5月、講座を15回程度行いたいと思っています。ほかに取材や任意の打ち合わせ等も行いたいと思っています。最終的には、平成25年3月に冊子の発行を予定しております。この冊子を発行するに当たっては、講座において冊子の趣旨を理解してもらったり、受講生が取材する人や場所、地域資源についてのアドバイスをしてもらうなどの協力が必要ですので、冊子を初めて作りたい、この講座に参加する方は、そういう知識がなくても講座に参加できますので、そこら辺の情報は区民会議委員がこれからできるだけ協力していただいて、情報の提供をしていただければと思っています。

実際に動いていただく人たちということで、この養成講座ですが、開催日時は平日の午前中として、主婦層やリタイア層を主な対象と想定しております。具体的なプログラムは今後検討していき、1月には案を示したいと思っています。

続きまして、提案②、宮前区の地域情報を戦略的に発信しようということで、さまざまなメディアを使いながら宮前区の魅力的な地域情報を区民の目線から継続的に発信するみやまえ情報サポーターズを結成します。というのは、先ほどはみやまえ情報サポーターズ養成講座ということだったのですが、養成講座が終了しましたら、協力していただける方を集めた中で、みやまえ情報サポーターズを結成し、宮前区内の情報を的確に提供していこうということでございます。

趣旨としては、地域の魅力や楽しみ方を市民や地域が主体となって発信していこう

という動きが広がっていますとございます。5ページの右下のところには、新百合ヶ丘の地域で大学生が地域と協力して出している情報誌等もございます。これは、しんゆりデートプランや、リーズナブルでおいしいを大学生の視点から紹介している情報誌であります。この情報誌発信については、公平性やバランス感覚を重視する行政からは得にくい面がありますので、市民や地域が主体となっているからできるということで、宮前区も地域や市民が主体となって作っていくということになります。また、昨今ユーチューブ、フェイスブックなどのソーシャルメディアの情報発信力を考えますと、ここら辺を有効に使っていくということで、宮前区においてもみやまえぼーたろうなどを初めとする情報サイトがありますが、まだまだ地域や区民を巻き込んだ動きや仕組みが十分ではないということでもあります。実施内容としては、これからの情報発信は地域や区民を巻き込み、さまざまなメディアを効果的に活用して戦略的に展開する必要があります。そこで、広く区民に呼びかけて地域で楽しむことに興味のある区民が参加し、こうした人たちの視点から継続的に情報発信をする仕組みとして、（仮称）みやまえ情報サポーターズを結成しますということで、下に宮前区情報戦略イメージというのがございます。お目を通していただきたいと思えます。

結成の流れということで7ページになります。講座を通じた人材育成ということで、（仮称）みやまえ情報サポーターズ講座に参加しますと、冊子を作る過程に加えて、ソーシャルメディアについても学ぶことができ、さらに、さまざまな媒体を活用した効果的な情報発信、情報共有の戦略についても学び、その実践訓練として冊子の作成経過や冊子に掲載する内容を発信していきますということです。

続きまして、（仮称）みやまえ情報サポーターズの結成ということで、講座の受講生の有志を中心に、活動に関心のある人を募り、冊子作成後も継続的に情報発信をするみやまえ情報サポーターズを結成してまいります。みやまえ情報サポーターズは平成24年度内に行う講座が終わった後も、自主的あるいは組織的に情報収集や取材をして、それをソーシャルメディア等で発信していきます。ソーシャルメディア等での関心のある人同士のコミュニケーションやネットワーク化の中で、みやまえ情報サポーターズのコンセプトに共感を持つ人を増やしてまいります。

続きまして、継続的な情報発信ということで、これらにより実績、経験を重ね、みやまえ情報サポーターズが中心となって新たな付加価値のある情報が継続的に発信されることが期待されます。活動の展開として、（仮称）みやまえの参加を促す冊子改定版の制作や、歳時記みやまえの編集への参加なども想定されます。

スケジュールとしては、みやまえ情報サポーターズは平成25年度の早い時期の結成が期待されます。

課題といたしまして、みやまえ情報サポーターズの結成に当たり、その枠組みをどうするかによって活動形態や資金についての考え方が変わってきますということで、

活動形態、活動領域、資金が課題になるということです。

8 ページに、今までの地参知笑部会の検討経過が記されております。

その次のページにチラシが入っているのですが、こちらは地参知笑部会の高橋委員に作っていただいたのですが、養成講座の募集のチラシ案となっております。できるだけ区民会議の皆さんには、ぜひともお時間がございましたら参加をしていただければと思っております。

説明としては以上です。ありがとうございます。

山下委員長 どうもありがとうございました。宮前区にただ住むだけ、暮らすだけという人もおられるということです。宮前区のことをもっと詳しく知ってもらいたい、そのために情報発信をしたい。情報サポーターを育成していきたいというご提案でした。どうもありがとうございました。

2つの専門部会での議論の内容について、それぞれの部会長から報告をしていただきました。ここからは委員の間の意見交換に入りたいと思います。恒川副委員長に補足説明と意見交換の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

イ 意見交換

恒川副委員長 委員長のお話がありましたように、これから意見交換に入りますが、私は今お話を聞いていて、ただいまの両部会の報告はこの1年半にわたって皆さんが頑張っていて、よくいろんな議論をされてきて、うまく集約されてきたなど素直に納得できる内容だなと思えました。区民会議としてよい提案ができる方向に来たのかなど、実感として素直に聞きほれていたというのが実態でございます。

また、活力部会では、いわゆるマイナスイメージの坂道をプラスイメージに変える、地域資源として活用する、加えて宮前区の特徴を知っていただくということを仕掛けておるようで、そのために活力づくり部会の委員の方が実際にルートを歩いて調査を行って、それを提案のもとにしたということは大変よかったと思っております。

また、地参知笑部会。これは名前のとおり、地域資源を生かし、地域の魅力を知っていただき、地域社会への参加につなげ、笑顔の広がるまちにするというのが会の名称でもございますので、そのためにも、今最後のほうにありました情報発信ということが、区民の皆様を知っていただくためには大変大事なことである。ただ、問題は、今まで情報発信、たくさんのもので出ているけれども、それはあくまでも出し手、送り手の自己満足のようなものであって、区民の方が受けとめづらかったということがあろうかと思えます。そういう意味では、今回の区民会議では、いわゆる受け手の区民の立場から情報発信をするという視点でいろいろ考えていただいているということは大変よかったのではないかなど。特に紙媒体が従来は中心になっておりましたけれども、これからは、さっきの図にあるように、インターネットを組み合わせ、さまざま

まな手法、チャンネルで効果的に行うという、全く目新しい情報発信方法を検討していただいたということは大変よかったです。余り私がしゃべるといけませんので、皆様の意見交換にこれから入りたいと思います。いかがでしょうか。

直本副委員長 活力部会のことで補足説明を1つだけさせていただきたいのですが、まず、地参知笑も、活力づくり部会も、両方ともに冊子を作るというような説明がございました。地参知笑のほうは、対象の中心として転入される方、家族世帯ということを土台に置いているのですが、活力づくり部会のほうの冊子は、もう既に宮前区に住んでいる方々で、坂道で困っている方、あるいは坂道に興味のある方、そういった組織とかグループ、団体、家族、個人の方々にこの冊子を活用していただきたいということで、中心として配る対象が地参知笑と活力づくり部会とちょっと異なっています。そのために、活力づくり部会はスタンプラリーの台紙もつけて興味や関心を持ってもらおうかなといったことも提案の中に入っているということだけ説明をさせていただきます。

恒川副委員長 ご意見やご質問、あるいはほかの部会の方への感想等についてもお願いします。

佐藤委員 地参知笑部会さんにお聞きしたいのですが、みやまえ情報サポーターズの件なのですが、開催するということはわかったのですが、養成講座は改訂のたびに講座を開いてメンバーを増やしていく感じがあるのか。多分、予算立てとかそういうものがあって、来年開いて、再来年開いて、3年間というパターンもあれば、改訂のたびに講座を開いて、例えばみやまえガイドブックみたいに改訂のたびにまた委員を募集するというスタイルもあろうかと思うのですが、どのようなスタイルなのか。あと、養成講座以外でも興味を持ってきた方など、メンバーは随時募集をするのか、そこら辺がもし決まっていれば教えていただきたいと思います。

持田委員 今のご質問ですが、まず、何年続けるかというのは実際のところ、話に出てはいるのですが、決まっておられません。今回、まず第1回目ということで、情報サポーターズ講座を開いて、そこで実際にどのくらい集まってくれるかというのもあるのですが、先々はソーシャルメディア等に関心のある人同士のコミュニケーション、その人のつながりで人が集まってきたりして継続していければいいのかな、もしそれができなければ、その先また講座を作るのかなという、そこら辺はまだ流動的なところなんです。

佐藤委員 ありがとうございます。

恒川副委員長 ほかにご意見か何かございませんか。

佐藤委員 私の説明だったら、メンバーの皆さんは補足したいなというところがいっぱいあると思うのですが、どうですか。

藤田委員 質問というよりも、部会が違うものですから、ある意味で詳しく知らなかったのですが、非常に私はいいアイデアだと思うのです。というのは、市民活動の場合、

例えばこういった情報サポーターになって、ある情報をまとめてみますね。それを成果として実際に、これは本当のサンプルなのでしょうけれども、本当に発行しますというこれがないと興味のある方が集まってくれませんし、それを成果として出せば、それをもとにまた続けようという人材が集まるのじゃないかという意味で、非常にすばらしいアイデアだと思うのです。ですから、ただ講座をするのじゃなくて、やった講座でできたものが本当に出ますよというところをぜひポイントとして実行してほしいなと思っております。

恒川副委員長 ありがとうございます。大村さん、歩いて実感はどうですか。

大村委員 実感というのは、季節によって違うというのが私の実感なのですが、私は春に全部回ったのです。今度はワーキンググループで秋に回ったのですが、やっぱり秋と春はかなり違うなという印象は受けました。

久保委員 活力部会のほうですけれども、坂道ウォーキングイベント開催というのにちょっと引きつけられまして、この報告を読んでいると、宮前区で坂道を活用してもうちょっとアピールできるものになるのだなという実感をすごく受けたのです。第2期の冒険遊び場もそうなのですが、広報が一番大事だと思っていて、幾らすばらしい冊子を作ったり、企画をやっているにしても、それをどういうふうに広報するかで決まってくるようなところがあるのです。そういう意味で、ウォーキングイベントなんかは、最近この宮前区役所の前を走っている人の姿とか、いろいろ見かけるのです。そういうのを見ていると、ユニフォームじゃないですけれども、トレーニング用の服装だったり、シューズだったり、特に健康の面では足に負担のかからないような歩き方とか、そういうところはすごくポイントが高いというか、知りたいと思っている人はいっぱいいるだろうし、何だこんな身近なところですごく健康を意識したものが使えるのだなと本当に思うので、ぜひ広報をどうするかというところで、フロンターレさんがいるのであれば、そこら辺をどんどん使ってやるとか、イベントも大事だなと思ったのです。本当に宮前区の目玉にこれからなっていくのではないかと思います。

今うちの息子は高校生なのですが、筋力トレーニングという意味ではすごく気にしているので、若者もそれこそ巻き込めるのじゃないかなと思っています。感想でした。

恒川副委員長 川崎フロンターレと出ましたので、浦野さん、ちょっと一言。

浦野委員 こんばんは。ここのところ参加できていなくて大変申しわけなくて、きょう来ましたら大分進んでいるので、正直びっくりしているのと、すばらしいものができ上がっているので、感心して読ませていただきました。

先ほどのお話にもあった靴とかウエアというのは、アイテムのことをおっしゃっているのですよね。健康づくりのためのウォーキングイベントのアイテムのことをおっしゃっているのだと思うのですが、格好から入るという言葉がありまして、ス

スポーツ全般的に何でも皆さんプロフェッショナルなものはそんなに最初からないので、形から入るとするのは非常に大切なことなので、本を作るという形で、ウォーキングの本なんかを作るということでもいろいろともんできたと思うのですが、そういう中に靴の紹介だったり、アイテムはこんなものがあるよとか、こんなスタイルがいいよというところがあると、若い人たちの食いつきもいいのじゃないかと思うのですね。勝手なことばかり言ってすみません。議論のところに入っていなかったのに客観的すみません。

あとは年齢を重ねていって、本当にこれから先体を作っていくことが大事という部分でやっていくということに当たっては、今できているもので、こうやって歩いたらいいのか、こういうふうに筋肉を使っていくんだとか、そういった専門的な部分に触れていって、両方から攻めていくという形でやっていったら制作物に関してはいいかなと思います。

フロンターレとしてはどうか、フロンタウンさぎぬまとして、宮前区の鷺沼にありますので、いつでもあそこを拠点にスタートもできますし、そういったPRに関しては全面的に協力もできるかと思います。歩くという部分では、この間観戦ツアーをやったのですが、これは私が担当しているのですが、ポールウォーキングというのを今始めまして、ポールウォーキングというのはスキーのストックみたいなものをこういうふうについていくのです。ノルディックが一般的にあると思うのですが、ノルディックは後ろにこうやっていくもので、ポールというのは前に前についていく。メディカル系のところから発祥したもので、四つ足というところで体の安定感がいいということと、体の90%の筋肉を使って歩くというすごくいいものがあった、それが坂道を歩く上ですごく楽なのですね。実際に歩け歩けとやっても、坂道を走ったり歩いたりというのは、ふだん運動していない方はかなりきついと思うので、そういったアイテムを使いながらやるというイベントも割といいのじゃないかと思えます。イベントは得意なので、その段階になりましたらいろいろとお話しさせていただきたいと思えます。

恒川副委員長 ありがとうございます。時間がだんだん差し迫ってきたのですが、ちょっと私から聞きたいのですが、とりあえず募集した18の坂を中心に6つのエリアを考えました。区として38の古くから名称がある坂もある、それ以外にもついていない坂もある。そういうところでの発展性ということについては、どのようにお考えでしょうか。

佐藤委員 その質問は、18の坂以外に今後扱っていく、取り組んでいくかと解釈してよろしいでしょうか。今、ここでうちのメンバーみんなが横に傾いたということは、多分そこは議論がなされていない部分かと思うのですが、坂の中には18以外の坂も入れさせていただきます。そこら辺は今回のことがどの程度皆さんに周知されるのか、

また、取り組んでいただけるのかというところを踏まえて話をする機会があればというところなのですけれども、ただ、議論の中でも18の坂の名称をつけたときは、犬蔵の開発がなされていなくて、6つのコースの中から犬蔵、菅生ヶ丘のほうが全く抜けているので、何かのイベントのときにちょっと取り組んで犬蔵方面をフォローしてあげる必要がありますので、最終報告までの間にその部分に触れて議論をしていきたいと思えます。

恒川副委員長 ありがとうございます。最後に、情報の問題について、高橋さん何かありませんか。

高橋委員 ないです。

恒川副委員長 平井さん、どうぞ。

平井委員 地参知笑の平井と申しますが、実際に活力部会の報告を見せていただいて、部会の方が実際に動いてやって、ある程度の基本を作っていくという形で、私たちの部会では、だれが動くのだろう、自分たちが動くのじゃない、じゃ、だれに頼んだらいいのだろうということで、このサポーターズをお願いするという形です。ただ、やっていけばいくほど、今までの思いをいかにこの方たちに伝えながら冊子を実際作っていただくかということが、すごく私たちの中ではネックになってしまって、いつの間にかコーディネーターとなっていましたけれども、やはり我々も残るといふか、そこにかかわっていかなければ2年間話したことがうまく伝わらないのじゃないかということが、どうだったんだろうとジレンマだったのですが、活力部会ではそういうふうに進めていらっしゃるの、それをしていかなければいけないのかなと今回感じました。だから、そこで人材を育てるのを、我々がいかにどういう形でかかわっていくかというのが、今後の課題かなというのがすごくあります。

冊子を作るというのは、新しいものを作るということではなくて、参加型。活力部会でも、スタンプラリーとかそういうもの、要するに、その冊子で、参加することによって、そこに丸がつくなり何かがあるという形のもの、やりたいなということ、今度のサポーター養成講座の中に、いかにそれを上手に話しながら進めていくかというのがこれからすごく課題かなと思えます。

吉田委員 高齢者の立場から質問したいのですけれども、坂道歩こう会のほうです。我々高齢者は、宮前区老連では年に何回か歩こう会、それから他区、単位クラブでも年に4回ぐらい、どこのクラブでも歩こう会をやっています。坂道をこういふことでお伝えいただくのも非常に参考になっていいと思うのですけれども、高齢者の立場から、どういう人の状態でカロリーだとか、年齢層によってどういう程度のことか配慮されてこういうものを作ってもらえるのか。世代間でいろいろ、相当ハードなのか、自分も坂道をしょっちゅう歩いているのですけれども、きついなと思ったりしているのですが、この辺のことも考慮に入れてもらって編さんしてくれたらありがたいと思ってい

るのです。

恒川副委員長 活発な意見交換で、まだまだ幾らでも話は続くのであろうなと思いますが、ぼちぼち時間が迫ってまいりましたので、ここらあたりで意見交換はおさめということにさせていただきたいと思います。今までのお話、両部会長のお話、あるいは皆さんの意見を考えてみますと、3期の提案というのは単に宮前区を住む場所ではなくして、いわゆる楽しく暮らす、喜びがたくさんある区なのだよということを再認識していただく、そういう意味で、宮前区の将来性、発展性、まだ人口はふえていますけれども、ますます、まだまだ伸びていくのじゃないか。そして、ほかの地域の方から、ぜひ宮前区に移りたいというようなことが出てくる区にしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後になるのですけれども、本当に今回の委員の皆さんは意見を活発に出し、参加していただいたということについては、大変よかったなというのが実感でございます。ここら辺で意見交換の締めくくりとさせていただきます。

山下委員長 各委員から出されましたご意見など、また引き続き検討していきたいと思いますが、ただいまの皆さんのご意見の中で、例えば健康のためのウォーキングは格好からというお話もありましたので、これはまた非常に珍しいご意見だなという気がしました。

それでは、皆さんのご報告、ご意見を、次の1月の各部会で第3期の宮前区の区民会議の提案の案としてまとめていきたいと思ひます。提案の案として提出していきたいと思ひます。ひとつよろしくお願ひします。

(2) 宮前区区民会議フォーラムの概要について

山下委員長 それでは次に、議事の(2)宮前区区民会議フォーラムの概要についてに移りたいと思ひます。資料4、宮前区区民会議フォーラムの概要(案)につきまして、事務局のたたき台をもとにしまして企画部会で検討したものです。直本副委員長から説明をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

直本副委員長 それでは、宮前区区民会議フォーラムの概要について説明をさせていただきます。

企画部会で大体構想を練ったものでございます。昨年度、区民会議フォーラムを予定しておりましたけれども、震災の影響で中止のやむなきに至りましたので、今年度といひますか、来年のことになりますけれども、何とか開催にこぎ着けたいと思ひております。

まず日時ですが、例年と同じ形で3月中旬、17日の土曜日、1時半から約2時間を予定いたしております。場所につきましては、この会議室で行います。

区民会議フォーラムの目的は、従来と同じで、第3期、今期の宮前区民会議の活動

内容を知っていただくということが第一でございます。それにあわせまして、宮前区の魅力と情報発信について考えていきたいと思っております。フォーラムの内容についてですが、アトラクションを15分程度、区民会議からの報告を40分程度、さらに事例紹介とディスカッションを50分程度ということで予定しております。

その内容ですが、まず、アトラクションは今回初めてだと思っておりますけれども、宮前区区民会議のテーマでありますコミュニティとか宮前区の産物を絡めた落語を内容として考えております。フォーラムに参加していただいた方々に、こういうこともあるのだよということで気楽に参加していただいて、緊張をほぐしていただければということで、当初の15分に入れております。

2番目の区民会議からの報告は、区民会議の仕組みの説明、第3期の区民会議の提言を行うことを予定しております。さらに、地参知笑部会のほうで説明がございましたみやまえ情報サポーターズ養成講座への参加も、具体的にどういう形で進められるか、参加者が本当にいるのかいないのかということも不安を持ちながらやっているところがございますので、こういった参加の呼びかけもまた改めてしたいなと思っております。

3番目の事例発表と意見交換につきましては、宮前区内のいろんな組織やグループが既に情報発信をしているということで、そういった地域の情報とか自分たちのグループの活動情報を発信している団体で、地域にそういった情報を提供している組織につきまして、3団体からできれば5団体、時間的に無理かもしれませんが、そういったところに日ごろの活動とか情報発信の取り組み状況を紹介していただければと。それをもとにいたしまして、宮前区の魅力の発見とか再確認、さらに参加を促す効果的な情報発信はどのようにしていけばいいのかといったことへの理解、さらに第3期区民会議の取り組みへのコメントといったことが意見交換としてできればありがたいなと予定いたしております。

全体的な予定としてはそういうことですが、それを効果的にするために事例発表団体のポスターをこの部屋の中で展示したいと思っております。さらに、できれば第2期の提言であります、これから説明があるかと思いますが、みやまえカルタ、冒険遊び場の活動状況など、既に行われているものの展示も考えております。さらに、できれば休憩時間を途中でとりますが、そのときにミニみやまえカルタ大会を開催いたします。これはどういう形ですかまだ具体的に決まっていないのですが、フォーラムに参加した全員に、できればこういった形で、ちょっとの時間ですが参加していただければなおいいんじゃないかということを考えながらさらに進めております。

大体的にはそういったことにして、全体的に関心を持っていただくというふうに予定いたしております。準備に対しましては、委員全員で運営を行っていききたいと思っております。

山下委員長 どうもありがとうございました。宮前区区民会議のフォーラムということですが、今年度は震災で流れてしまいましたので、皆さんイメージがわからないかなという気はしますが、来年はまた再考して進めていきたいと思います。何かフォーラムについてご質問、その他ございましたらおっしゃっていただければありがたいと思います。

特になければ、また来年の各部会その他で検討していきたいと思います。フォーラムの詳細な内容や当日の役割分担などについては、各部会で話し合っ、2月の全体会で決めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

4 その他

山下委員長 予定されていましたが、大体これで終わりとなりましたが、最後に、第2期区民会議からの提言であります冒険遊び場について、最初に説明をお願いしたいと思います。久保委員からお願いいたします。

久保委員 冒険遊び場ですけれども、震災の関係で支援委員会の立ち上げがおくれましたが、9月、夏休み明けにシンポジウムを開催しまして、その後無事に支援委員会が設立しました。その後、市民館で冒険遊び場づくり講座も開催しまして、受講者が17名ということで今粛々とやっております。その間に、10月16日、区民祭の日に菅生緑地出張遊び場ということで、こちらは冒険遊び場づくり協会に委託しましてプレーリーダーを3名派遣してもらい開催しました。菅生緑地という場所もよかったと思うのですが、林があって、広い草原があって、本当に自然の中で広い場所で子どもたちが生き生きと遊ぶことができました。

感想としましては、今回、公園という場を利用して地域コミュニティとかの場を作ろうということで始まった事業なのですが、今回、出張遊び場をやりましても、まず作り手のほうで、行政の部署が子ども支援室、企画課、地域振興課、道路公園センターと4つの方が集まって実際かかわっているということ、市民活動をしているほうから見ますとすごく心強いと思いました。まずそういうのもすごくよかったですというのもそうですが、実際に今講座を行う中で、今度、土橋1丁目公園で11月30日水曜日、宮崎第1公園では12月6日火曜日、それぞれ受講者が分かれましてプレで実施するのですが、このメンバーが、多少入れかえはあったとしても、担い手になってくれるだろうというような形で動いています。

その中で、今若いお母さん、乳幼児連れの若いお母さんがすごく頑張ってくれているのです。この間、花の台の町会長さんが公園の愛護会長もやられていて、あいさつに行ったりしたのですが、そこですごく緊張していたと思うのですが、心温かく迎え入れてくれて、お宅に案内されているいろいろお話ができたみたいな感じで、すごく喜んでいるのです。そういう形で、若い世代のお母さんもこれをきっかけに地域に

つながったり、あとは自分でも何かができるんだというすごい自信につながっているというのがちょっとずつ見えてきて、本当によかったなと感じています。

来年度も支援委員会というか運営委員会のほうでは、きょうも会議があったのですが、出張遊び場でとにかくPRしていくこと、冒険遊び場づくり講座で担い手の発掘、シンポジウムなどでの啓発事業と3本柱でやっていこうという話もあるのですが、何にしても広報が、さっきも会議の中で言いましたけれども、いろんな機会にお母さんとかお父さんとかいろんな人に、冒険遊び場は知っていますかとか、どう思いますかみたいなことを声かけするのです。どの方もすごくいい取り組みだ、近くでやってほしいみたいなことを言うのですけれども、知らなかったという方が多いので、すごくもったいないと思ひまして、これからはもうちょっと広報、どういうふうにアピールしていくか、どういうふうに知ってもらおうか、そういうところに力を入れていきたいなと思っています。

山下委員長 どうもありがとうございました。では次に、同じく第2期の提言であるみやまえカルタについて、河井委員からお願いしたいと思います。

河井委員 よろしくお願ひします。みやまえカルタですけれども、こちらは宝探しときめき再発見の部会からの提案を受けまして、平成24年度、区制30周年にみやまえカルタを作っていこうということで、前段階の地域カルタを今制作中です。簡単な流れですけれども、平成22年度には絵札と読み札の募集を広くしまして、平成23年度は、まず絵札の応募が少なかったということもありますけれども、読み札を決定しまして、絵札は写真、資料、それから応募された絵札をもとに、実際にはイラストレーターに絵札は依頼しました。宮前平中学校区だけは、有志の方がパソコンのソフトを用いて作ってくださる方がいて、オリジナルの絵札になっています。

先行して、平地区と宮崎地区、菅生地区が10月の宮前区民祭までに間に合ひまして、できております。色も各中学校区違うのですけれども、こちらの箱の中にこういった説明文が書かれたものが1枚入っております。さらに、ジャンボカルタと言ひまして、これはイラストレーターで書いたほうの絵の雰囲気になっております。それから、これが宮前平中学校区の方がパソコンのソフトで書いたタイプのもので、これを利用して、宮前区民祭のときにジャンボカルタ大会、それから、サンドイッチマン状態の宣伝で、パレードで、前に絵札、後ろに読み札という形で、たすきのひもで張りまして、宮崎のダンスチームの子どもたち30名ほど、とても暑い日だったので、パレードで長い距離を歩いてもらひまして、どれぐらいアピールになったかわからないのですけれども、その午後にジャンボカルタ大会をしましたらば、不便なわかりにくい場所だったので、結構子どもたちが集まってきて盛り上がったカルタ大会をすることができました。

それから、中学校の文化祭にも展示したのです。当初は、このカルタは小学生向け

というターゲットだったのですけれども、中学校の文化祭に持っていきましたらば、自分の中学校のカルタが読まれているわけですから、その文化祭に関係している子たちが集まったりして、ぜひ欲しいということもあったので、中学校にも配付することが追加で決まりました。区民祭でもそうでしたし、そういうものを披露すると売ってほしいという声はかなりありましたけれども、まだ販売のことは想定していなかったので、今後の検討課題かなと思っています。ほかの中学校区も12月の中旬には完成予定となっています。

それから、平成24年度には地域カルタをもとに、新たにみやまえカルタというものを制作していった、選抜をしながらということなので、野川も入れまして8中学校区ですから、1つの中学校区からは本当に少ないものになってしまいますけれども、それを作る予定で、これから選抜に入るところです。

制作過程で地域コミュニティを活性化するというのももちろん目的だったのですが、完成後においても、作ったら終わりではなくて、広報や地域でのイベント、学校教材での活用などを通じて、そのときにも、より活用してもらうために区民会議委員もアドバイザーとして出向くことも必要なのではないかと話しております。

これを通してぜひ地域への愛着を深めてもらえればと思っていますところでは。

山下委員長 どうもありがとうございました。冒険遊び場、それからみやまえカルタ、両方とも2期の区民会議の提言でもありますので、皆様のご協力をよろしく願いしたいと考えております。

3 その他

山下委員長 それでは、次に今後のスケジュール、その他の事務連絡について、事務局からお願いしたいと思えます。

事務局（有山） 参考3をごらんいただきまして、今後のスケジュールでございます。本日、第6回区民会議を開催しているわけですが、第7回区民会議、1月下旬から2月上旬。ここでは区長への提案確認とフォーラムの確認ということで開催いたします。2月の下旬には区長への提案、3月中旬、先ほど説明がございましたが、区民会議フォーラム。各部会では第7回の区民会議の前に区長への提案確認とフォーラム確認をしてもらい、企画部会では区民会議フォーラムの最終確認を行っていただく予定でございます。

次のページ、参考4でございます。かわさき自治推進フォーラム2012の開催についてのご報告でございます。これは日時が決定しています。来年1月29日日曜日、13時から17時半。場所は高津市民館で行います。テーマは「活かせ！川崎の地域力 ～深めよう、人と人のつながりを～」でございます。

タイムテーブルとしましては、12時半に開場、13時から開会、13時5分から、川崎

フロンターレ特命大使でございます中西哲生さんから、「人と地域の結びつき ～川崎フロンターレでの経験から～」ということで、基調講演を60分間行っていただきます。その後、70分間パネルディスカッションを行って、100分間区民会議交流会、その後、実行委員長によるまとめで閉会という形でございます。

次のページですが、これは区民会議交流会の開催について(案)となっておりますが、背景と目的とかは書いてございますので、後ほどお読みいただければと存じます。

次のページが、今回の区民会議交流会の出席名簿です。宮前区の欄を見ていただきますと、出席者、山下委員長、佐藤活力づくり部会部会長、持田地参知笑部会部会長の3名にご出席いただく形になっております。

次の参考5が、平成24年度宮前区地域課題対応事業計画(案)でございますが、これは後ほどまたごらんいただいて、概要等でわからない不明な点がございましたら、企画課に来ていただければと存じます。

最後に、委員の皆様置いてある、第3期宮前区民会議の総括に向けた委員意見調査でございます。これは第3期宮前区民会議総括報告書を作成するときに、第4期以降に向けての改善すべき点として掲載するものでございます。中身としては、3期の取り組みについて評価すべき点とか、地域課題の把握方法、審査対象課題、全体会の会議運営など改善すべき点があれば記入していただいて、来月、12月20日火曜日までにご提出いただきたいということでございます。事務局からは以上でございます。

山下委員長 どうもありがとうございました。説明がございましたように、来年の2月には提案が確定いたします。その席上では、詰めの議論を進めていきたいと考えております。

以上で議事は終わりましたが、区長、何か今までお聞きになった中でご意見はございますでしょうか。

区長 両部会の報告を聞かせていただいて、最終的な提案を大変楽しみにしております。

それぞれの部会、地域コミュニティを作っていこうという中でいろいろご議論いただいていて、実際に実施していくには多くの方がかかわってくるということが大変重要ではないかと思っております、そういった仕掛けも考えていただいておりますので、最終的な報告を楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

山下委員長 どうもありがとうございました。最後になりましたが、参与の方、何かご意見がございましたら、お願いしたいと思います。

竹田参与 本日は参与として出席させていただきました、まことにありがとうございます。両部会からの提案、非常に宮前区は坂が多いところで、私自身も宮前区の小中学校に通っていて、小さいころからマイナスのイメージしか持っていなかったことが正直なところではございますが、そういったマイナスのイメージをポジティブにプラスにしていくということで、地域の活力づくりをしていくことは非常に重要なことだと

思っております。

若干話がずれるかもしれないのですが、例えば川崎市の臨海部で今工場夜景というものが非常に注目をされておまして、成功している事例だと思っております。また、そうした一見マイナスに思える坂道を楽しみながら、健康づくり、体力の向上、ダイエットのため、そしてまたお子様の方々がスタンプラリーなどで楽しめるという、そういうメリットを大きくアピールして成功につなげて、地域の活力づくりをしていければ非常にうれしいと思っております。

地参知笑部会のコミュニティへの参加を促す冊子と情報戦略につきましては、やはりITを利用するということに非常に注目をさせていただいております、私自身も、今の若い世代も、私もぎりぎり20代でございます、ほとんどがネットを利用している。携帯電話もほとんどの方々がスマートフォンを利用して、ネットから情報を引っ張ってくるというのが当たり前になっておりますので、メディアミックスという、ツイッターやフェイスブック、ユーチューブを活用した取り組みというものに非常におもしろみがあって、多くの方々の関心を集めて成功するものだと思っております。

こうした両部会の取り組みが実現されて地域活性化につながっていくことを非常に期待させていただいておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

山下委員長 ありがとうございます。ほかの参与の方はいかがですか。

山田参与 皆さん、こんばんは。遅参して申しわけありません。山田晴彦でございます。

皆さんの討議はほとんど聞けなかった状態だったのですが、今竹田参与からその模様を聞かせていただきました。私も、先般行われました区民会議のときにみやまえカルタを見せていただいて、すばらしいものができているなど本当に感動いたしましたし、先ほどの竹田さんのお話でもありませんけれども、宮前の坂について、別の意味で希望の持てるような、私たちもそうなのですがメタボですから、カロリー計算が、坂を歩くことによって何キロカロリー消化したという形のことのできるということを今皆さんがやっていらっしゃるということで、大変に期待をしたいと思っております。

コミュニティについては、私も今年に入って3月の震災を受けてから、岩手、宮城の被災地に行ってボランティアをさせていただいておりますけれども、やはりコミュニティというのは本当に大切なのだということをひしひしと今感じているところでございます。初めは泥かきから始まった作業でしたけれども、今は仮設住宅で、それぞれの地域から来た寄り合い所帯のような形で皆さん生活されておまして、何が一番大事かという、お互いの意思疎通が大事なのだということで、本当にそういったことを、被災地ではないのですが、宮前の中で作っていくということは、どれほど大変なことかとも思いますし、また、私たちもなかなかこういう場に参加してお

らないということで本当にご無礼しているのですけれども、しっかりとまた頑張っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

山下委員長 ありがとうございました。ほかの参与の方はいかがでございますか。

織田参与 すみません、せっかくの機会ですので。織田勝久でございます。本日は遅参いたしましたして申しわけございません。議会がきょうから始まりまして、それぞれの会派、代表質問の準備ということで遅くなりまして大変恐縮でございます。

1点だけ、坂道です。まさに逆手にとってということで大変すばらしいご提言をいただけるのかなと思っておりますけれども、やはり宮前区の交通不便地域の問題は現実としてあるわけですから、そういう意味では、幹線路線バスの問題でありますとか、コミュニティ交通の問題でありますとか、それもまた改めて皆さんといろいろと議論させていただきながら、住みよい環境づくりにともに力を合わせていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

山下委員長 ありがとうございました。持田参与、何かございますか。

持田参与 大変遅くなりまして、おわび申し上げたいと思います。また、3期の皆様方、大変ご苦労さまでございます。何よりも私は1期、2期の皆様のおかげには大分お世話になることができたのですけれども、3期の皆さんになられてからごぶさたがちになってしまいました。おわび申し上げたいと思います。ですから、あまり今様子もわからずここへ参りましたもので、いずれにいたしましても、宮前区の発展に向けて、また川崎全体の発展に向けて、皆様方からいろいろご意見、あるいはご経験をお寄せいただきながらお力添えを賜ればと思っております。ありがとうございます。

山下委員長 どうもありがとうございました。

議事は以上でございます。それでは、これからの進行は副区長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

5 閉 会

司会（板橋） 進行といいましても、終わりというだけの話なのですけれども、山下委員長、進行ありがとうございました。

それでは、長時間にわたりましてご活発な議論をいただきました。次回が最終回でございますので提案のまとめをよろしく願いしたいと存じます。これをもちまして、第6回宮前区区民会議全体会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。